

第2回 高浜町総合計画審議会 議事録

日程 令和2年1月29日(水) 午後1時30分より

会場 高浜公民館会議室3、4

1. 開会

- ・ 区長連合会会長の交代に伴い、石本祥次委員から田淵幹啓委員に委員に交代。
- ・ 委員15名のうち12名が出席、高浜町総合審議会条例第6条第2項の規定により会議の成立を確認。
欠席者：西野副会長、角谷委員、大角委員(遅参)
- ・ 会議録作成のため、録音を行うことを確認。

2. 会長あいさつ

3. 議事

(1) 高浜町の概況について

- 事務局 資料1 高浜町の概況説明
- 田中会長 事務局から高浜町の概況について説明をいただいた。
ご質問等があればお願いしたい。
— 特になし —
- 田中会長 また、後から総括してご質問等をお願いしたい。

(2) 町民ワーキング委員会等の経過報告について

- 事務局 資料2 町民ワーキング委員会等の経過報告について
(前回審議会以降に開催した会議について報告)
- 田中会長 事務局から説明いただいた内容について、ご質問等があればお願いしたい。
— 特になし —

(3) 総合計画の全体構成について

- 事務局 資料3 総合計画の全体構成について
- 田中会長 事務局からご説明いただいた内容についてご質問等があればお願いしたい。
- 委員 リーディングプロジェクトと分野別施策はどのような関係になるのか。
リーディングプロジェクトを展開するために分野別の施策があるのか、それとも分野別の施策の中からリーディングプロジェクトに位置付けていくのか。
- 事務局 分野別施策では行政全体を包含する、いわゆる網羅的な立て付けを考えている。その中でもこれから5年～10年、特に重視する、牽引する取り組みを特出しする形でリーディングプロジェクトを構成することを考えている。
- 委員 プロジェクト横断的に施策を構成することもあるということで了解した。
- 田中会長 他にご意見等があればお願いしたい。

総合計画の構成としてはこのような組み立てで進める形よろしいか。

— 一同了承 —

(4) 総合計画基本構想 町民ワーキング委員会（骨子案）について

事務局 資料4 総合計画基本構想 町民ワーキング委員会（骨子案）について

資料4-1 基本構想「将来像（まちやひとの姿）」について

田中会長 事務局からご説明をいただいた。まず、町民ワーキング委員会基本構想案として、この構成や項目でよいかご意見をお願いしたい。

— 一同了承 —

続いて、基本的に町民ワーキングの項目「3. 協働と行政経営」「(1) まちやひとの姿」について、視点、記述内容の方向性等について意見をお願いしたい。

委員 「(2) 協働のまちづくり」に該当すると思うが、地域運営の視点を追加してはどうか。資料編の「わたしたちが取り組んでいくこと」でも公共交通の運営の記述があったが、今後、人口減少が進み過疎地域が広がるなかで、最終的には行政がセーフティネットの役割を担うかもしれないが、持続可能な地域としていくためには住民による地域運営の視点が重要となってくる。

委員 人口減少、高齢化する中で移動手段の確保はますます難しくなる。路線バスを増やすことは難しいが、公共交通を確保することは重要である。現在、内浦地区で取り組んでいる手法も一つであり、公共交通手段に近いものとして移動を確保する方向性を示してはどうか。先日、議会ではゴルフ場のカートを利用して移動するといった事例も視察している。具体的な方策が示せるとよい。

別の視点として、高浜は他の自治体と比べて災害が少ない。「災害に強いまちづくり」をもっと強く打ち出してはどうか。

委員 高浜町は本当に災害に強いのか。大きな災害が起きていないだけではないだろうか。経験がないから災害に強いまちでは困るし、大規模な自然災害が起こると「想定外」が逃げ口上となっている。「想定外」に対しても強いまちづくりが大事だ。

資料4-1に記載のある人生100年時代、人に迷惑をかけるのであれば100歳ではなく、そこそこの年齢でいい。夫婦ともに90歳超えると、元気ならばいいが、夫婦ともに施設入所や入院となったら、ひと月35万前後必要となり、年金では賅えない。その援助を誰に頼むのか。高齢になってお金がかかるのは困る。町としてそのような人に対して助けられるような仕組みはつくれないか。

委員 資料1「高浜町の概況」について統計的に説明いただいた。実感としては、私は8人家族だったが、今は夫婦2人家族になっている。子どもや孫は全員、高浜町を出ている。息子は定年したら戻ってくると言っているが、どうしたらこういった状況を改善できるのか。人口が減少するグラフが示されているが、どうしたらこのグラフのマイナス部分を改善できるのか考えてもらいたい。

高浜町の職員の給与が示されているが、県や他自治体と比べて給与が低いことに衝撃を受けた。給与が低ければ若い人は来ないのではないか。

- 委員 若い頃は都市部にいて、高齢になって高浜に戻ってくるというのは、税収の面からいくと町の負担が増えることにつながるのではないかと。高齢の人は少しでも少ないほうが良い。
- 孫が他自治体の消防局に就職したが、〇〇消防は給与が低く、人員が少ないために非番の日も十分に休めない、都市であれば人員体制がしっかりしているから、その自治体に決めたといわれた。
- 「3. 協働の行政経営」については、自助、共助、公助の必要性は記述されており、概ねこの内容でよいのでは。
- 事務局 「資料1 高浜町の概況」では、本町の現状は説明させていただいた。この現状を踏まえて、めざすべき姿、ありたい姿を考え、現状とのギャップを埋めるために必要なことを計画していく。
- 人生100年時代は、健康で100年を迎える、少しでも長く自活することが大事となる。
- 委員 健康で長生きして、ぽっくりとなればいいが、大半の場合は半年から数年の闘病生活となる。経済的な面も含めて耐えられるのか。
- 委員 結局、みんなで助け合いましょう、元気で長生きしましょうということになる。まちを維持する、税収の面からみれば、若い世代を応援する流れになっていくだろう。
- 委員 どのように若い世代にきてもらうかが重要。若い人が高浜に住めるようにしなければいけない。町職員の給与が県下でも低いのでは若い人は来ないのでは。給与の底上げをしていく必要があるのではないかと。また、これから先、廃炉が迫っており、雇用の確保も重要となる。
- 委員 発電所は25年後には停止する。現在、高浜の労働人口の約30%が発電所関係であり、発電所があることで宿泊業など観光業も成り立っている。また、舞鶴、小浜が不景気の中で、町外から1,000人くらい働きに来ている。発電所が停止することによって雇用がどうなるのか、高浜町だけでなく横とのつながりで考えなければいけない。
- 将来像に「くるむ」という言葉がよく使われているが、これは意図があるのか。
- 事務局 町の子育て支援活動を「kurumu」として展開している。子どもとその親を町の専門職や地域の人が「くるむ」、地域で包まれて育った子ども達が次の誰かをあたたかく包み、地域を「くるむ」人材となっていく。そのような理念のもとで子育て支援に取り組んでいる。そして、この取り組みが2019年度にグッドデザイン賞を受賞した。
- 町民ワーキング、検討委員会ではこのような「くるむ」の取り組みを踏まえて、子育て世代だけでなく、高齢者、障がいのある人を含めて、大きな輪のイメージ、出会い、つながりあいを表現する言葉として用いてはどうかという意見があった。
- 委員 「くるむ」はおくるみをイメージしてもらえればよい。「くるむ」は良い言葉だと思う。支えあいを表現できている。
- 委員 「くるむ」はどのような漢字を書くのか。
- 事務局 「くるむ」は「包む」と書いてくるむと読む。

- 委員 町内の小学校の入学式、卒業式に列席することが多いが、卒業する子よりも入学する子が少なく、少子化をひしひしと感じる。
- 5年後、10年後に子どもがどれくらいいるのか。人口が3割減ると推計されているが、その中で高浜町を維持しようと思ったら、住民の方一人ひとりが意識をもって行動していかないと、今の高浜町の状態を30年後も維持することは難しいのではないだろうか。
- 委員 団体の立場で発言すると、インバウンド、教育旅行が盛んになっている。若狭町では20年前から台湾等からのインバウンドで、小浜市も教育旅行でにぎわっている。高浜町がインバウンド、教育旅行を相手にできていないのはなぜか。宿泊施設を経営している方は高齢化しており、そのような方の多くが発電所関係の方をメインとし、教育旅行や観光目的の方の大半を断っているのが現状である。
- 来年はワールドマスターズがあるが、高浜町内にはどれくらいの方が宿泊できるのか調査中だが高浜の観光に危機感を覚えている。
- 事務局 人口減少は進むが、高齢者の人口がほとんど変わらない。その中で若い方は半分くらいになるのだろう。人口減少のスピードのカーブを多少は修正できても、少子高齢化がどんどん進む。これからの10年間はドラスティックにダウンサイズする、まちを作り直す10年にしないと負の財産が残るまちになる。そういった危機感を大きく打ち出し、これまでとは異なる町の方向を描く必要があるのではないかと。
- 委員 総合計画は住民と協働で策定しており、町長が変わったとしてもこの計画に基づかなければ行政運営はできないと言えるぐらいに位置づけを明確にしないと、高浜町が将来的にやっていけるのか不安になる。
- 委員 人口減少は目に見えている。さらに、今後は労働人口が減る。そうすると働き口も減る。働き口がない中で子育てをするにはどうしたらよいのか。働き口があるところに人口が集まっていく。働く場所がなければ、人口は都市部にながれていく、そうするとさらに労働人口が減少する悪循環になる。今後10年間で、働く場所の創出を考えていく必要がある。
- また、高齢化が進展し、介護を核家族で対応すると働くことが難しくなり、そこでまた労働人口が減り、働く場所の確保ができなくなる。
- 委員 福井新聞を購読しているが福井新聞には高浜町のことはほとんど掲載されない。若狭町のことはよく掲載されている。高浜町は情報発信がうまくいっていないように思う。
- 委員 県の観光協会では恐竜のことばかりで、アジア初のブルーフラッグの取り組みのことはほとんどPRしていない。このことを何度となく伝えたことで、やっと最近になってブルーフラッグのことを取り上げてくれるようになった。情報発信は待っていてもだめである。
- 委員 高浜町はマスコミの使い方があまり上手ではないと感じている。所属団体の長になって、各新聞の投げ込みを行い、今ではイベント等の情報を伝えると情報発信をしてもらえるようになった。マスコミへの働きかけが重要である。

- 委員 所属団体の取り組みも、福井新聞、日刊福井、チャンネル0に自ら情報を提供し、必ず取材に来てもらうようにしている。働きかけないとマスコミは来ない。
- 委員 社会動向でSDGsのことを記載しているが、SDGsの17の目標と高浜町の取り組みが具体的にどのように関係するのか示していただきたい。
- 事務局 まちづくりの取り組みはSDGsとリンクするものだと考えている。具体的な取り組みと17の目標との関係は基本計画で示していきたい。
SDGsは持続可能な開発目標のことで国連が掲げている。この講演会を3月2日に予定しており、また詳細が確定したらご案内をさせていただきます。
まちや人の将来の姿として大事にすべきこと、将来像のキャッチフレーズについてご意見をお願いしたい。
- 委員 案5は、私たちの本音をわかりやすく伝えているように思う。暮らしたい、働きたい、訪れたいとわかりやすい。
- 委員 将来像は外側からみた姿と内側の視点がある。案4の「くるむ つなぐ かがやく」の表現はよい。
- 委員 何もしらないと「くるむ」の意味がわからない。「くるむ」を使うのであればPRが必要では。
- 委員 現総合計画のフレーズを継続することはできないのか。私も、このフレーズはわかりやすくよいと思う。
- 委員 町民ワーキングではキャッチフレーズについて考える機会はないのか。町民ワーキングで選んでもらえばよいのではないか。
- 委員 将来フレーズの決定は審議会で行うのか。
- 事務局 町民ワーキングで、今回の審議会を踏まえてもう一度検討する。キャッチフレーズの最終的な決定は審議会が行うことになる。
- 田中会長 5つの案が示されており、町民ワーキングで選んでもらい、最終の審議会で決定したい。
将来像、協働と行政経営について意見を頂戴したが、概ねこの方向でよいか。

— 一同了承 —

4. その他

- ・ 次回は3月25日水曜日13時30分からを予定している。

5. 閉会